

令和4年度第2回太白区区民協働まちづくり事業評価委員会 議事録

- 日 時：令和5年3月4日（土）午前9時～15時30分
- 場 所：太白区役所4階第1会議室及び第2会議室
- 出席委員：本田茂委員長、笹崎久美子副委員長、岩間友希委員、岡部邦彦委員
- 事務局：山田まちづくり推進部長、那須野まちづくり推進課長、佐藤地域活動係長、
細谷地域活動係主事、稲舟地域活動係主事、増田地域活動係主事
- 会議内容：次のとおり

1 開会

委員長から開会のあいさつ。

2 第1回議事 【非公開】

議事録署名委員を指名した。

- (1) 評価基準・採点方法について説明
- (2) 助成予定額について説明
- (3) 申込事業の概要説明

3 まちづくり活動助成事業に係る事業計画説明会 【公開】

- (1) 開会
- (2) 事業計画の説明及び質疑応答

①「安心サロン「連合富沢」による事業計画説明及び質疑応答

事業名：富沢地域住民の防犯・防災事業”安心 安全に住める 我がまちづくり”

事業概要：居住人口が増加している富沢地域において、富沢地区連合町内会及びその周辺住民を対象に、防災・防犯に関する講座等を開催する。地域住民が災害や犯罪から身を守る方法を学ぶ機会を創出することで、安心・安全なまちづくりに貢献する。

質疑応答：[委員] 昨今のいろいろな問題を受けて、新たな講座をやっていききたいというのはよく伝わってきた。継続事業である健康づくり事業と、今回の防犯団体が、役員や規約も含めてほぼ同じであり、ほぼ同団体を同時期に新設することになる。会員からすると、会費が倍になり講座の回数が増えて代表も同じのであるため別団体という意識は持たないと思われる。二つの事業を混乱なく運営していくということで、どのような課題と、解決策を持っているのか。

[説明者] ご指摘の通り、すみわけについて悩んでいたところではあるが、健康も防

災もニーズがあることから両方とも実施していきたいと考えている。健康のほうは西多賀小学区を中心にやっていき、防犯、防災については、もう少し範囲を広げて、西多賀・富沢連合町内会まで、小学校区で言うと富沢小学校区や大野田小学校区まで含めて活動していきたい。富沢市民センターなどと連携しながら、全体的に声をかけていく必要を感じている。以上のようなすみわけを考えている。

〔委員〕一つの組織というのは一つの目的を持って、メンバーが集まって、組織を運営し、人を集めて予算を使っていくものである。今、健康サロンに参加している人たちに、延長で防犯のこともやっていくことで防犯の必要性が醸成されていき、そのあとに、他町内会や他団体と連携していくといった形で、メンバーや目的が変わり大きくなっていくと、次のステップにいけるのではないか。おそらく昨今の情勢から、使命感を感じ、急遽別団体作ったと推察されるが、健康サロンのメンバーで防災について試行錯誤しながら、段階を経て進めていくのがよいのではないか。

〔説明者〕老人クラブなどでは、カラオケや食事会などいろいろやっていたが、私どもは高齢者の健康に特化して取り組み、仙台南健康友の会の医療関係専門の人に協力を得てきた。防災・防犯については、別の領域と考えて、仲間の防災士会やセコム、同和工業などに声をかけて協力を仰ぐことを考えていた。受講者は同じかもしれないが、運営上のことや、講師の依頼先等の違いから、団体を別にしたところだった。

〔委員〕団体が4月時点で設立予定ということで、具体的にどういうことをやっていくかというところに注目していたが、発表の中ではその説明がなかったことが気になる。思いはあってもまだ何も決まっていないのか、実は体制が整っていないのか、具体的な計画の説明がなかった理由を聞きたい。

〔説明者〕具体的にやりたいことというのはある。防犯では、セコムや同和工業と話を進めているが、助成金が決まった段階で契約をすることとしている。防災では、例えば2019年の大雨災害時に避難の判断を誤った住民が多かったことから、地域住民に避難に関する知識を伝えていきたいと考えている。新年度に向け、連合町内会で声がけをするなどしており、年度末にかけて活動内容を書面にして進めていこうと思っている。

〔委員〕事業の実実施スケジュールについて聞いたかったが、発表時間中に一切触れていなかったため、あまり住民のメリットを考えていないのではないかと感じた。自身の実績ではなく、住民が何人参加し、どのような知識を得るのかなど、参加住民のメリットについて説明してほしい。

〔委員〕仮にこの防犯・防災事業が採択されなかった場合、防犯・防災の講義は全

くやらないのか、もしくは健康サロンの中でやっていくのか。

[説明者] 防犯協会の理事をしているので、会長のサポート役として推進活動に取り組んでいきたいと考えていた。具体的なものを示すことができないが、思いは持っているつもりである。

②「ふれあい健康サロン富沢」による事業計画説明及び質疑応答

事業名 : わがまち 富沢地区住民の健康づくり事業”いきいき はつらつ 100まで 元気”

事業概要 : 高齢化が進む富沢地域において、健康に不安を抱える高齢者に向けて健康相談会等を開催し、地域住民の健康寿命の延伸を図るとともに、地域との関わりが少ない高齢者などが外出して交流する場を創出し、互いに顔が見える安心な地域社会につなげる。

また、参加を促すために健康に関する行事を医療専門スタッフや仙台南健康友の会と連携して運営する。

質疑応答 : [委員] 事業費が大きくなってきているのは、事業規模が大きくなっているのと同じと考えてよいか。会員は固定しているのか、固定しているとしたら新規の人を入れていきたいのか、もしくはある程度固定して継続したいのか。

[説明者] 7割程度の会員が固定になっており、3割程度は出入りがある。会場まで出向くのが辛いという理由で抜ける方がいる一方で、きっかけがなかったという方に声かけして参加してもらえることもある。そこで出張講座を始め、対象地域を拡大していこうと考えている。

[委員] それが事業費増加に表れているということによいか。

[説明者] そのとおり。

[委員] 助成対象外にサロン運営費 6万円が毎年計上されているが、どのように使っているのか。

[説明者] 会議の際のお茶や、夏場の塩あめなどを用意しているが、助成対象経費ではないので、その他として計上している。

[委員] 自己資金 6万円がサロン運営費 6万円に充てられており、その他の経費をすべて助成金で賄っている状況といえる。助成終了後の活動計画の運営資金の部分について、(経費の抑制などを)今年度から取り入れていけば、予算を削減できるのではないかと。また連合町内会など声かけしているところがあるのならば、協賛金等で予算づくりができるのではないかと。そのあたりについて考えを聞きたい。

[説明者] 会員は年金暮らしの高齢者のため、会費を上げることはできない。協賛金は、地域に協力を依頼してみたいと思う。支出で最も大きいのは講師謝礼であるが、退職した医師に協力してもらったり、仙台南健康友の会に無償講師の相談をしたり

して、費用削減に取り組みたい。また自身が講師になり、専門家の立場からではなく、自身が学んできたことを伝えるということもしていきたい。

[委員] 今回全団体の申請額の合計が 300 万で太白区の予算が 220 万のため、減額される可能性が高いが、今年度から予算削減について考えているか。

[説明者] 努めて取り組みたいと思うが、活動の趣旨だけは守っていきたい。

[委員] 高齢者の会員から会費を取るの辛いと思うが、収入が下がることで活動が縮小していくのは残念である。可能ならば、一人暮らしの親を心配する子どもを、賛助会員とする仕組みを規約に入れてみてはどうか。

[説明者] 名簿の 60 名に限らず、富沢西町内会と富沢南町内会に声がけをしていく予定であり、これから参加人数が増えていく見込みである。広い地域に活動を拡大していくことを目指したい。

[委員] 継続して欲しいと切に思う内容だった。地域の中で医療関係に従事して退職した方などを巻き込んでいくことは、ぜひやって行って欲しいと思う。資金面だけではなく、下の世代でフォローしてくれる人を見つけ、活動を次の世代の方に繋げて行ってほしい。余裕がない働く世代に対しては、協賛金に協力してもらったり、付き添いで来てもらったりするなどの取り組みを、ぜひ今年から始めてもらいたい。

[説明者] 今の話を聞いて、市民センターや連合町内会と協力していこうと思った。町内会単位で効果的に広報していきたい。早速、市民センターや町内会長に相談して、より良くなるように進めていきたい。

③「桜会」による事業計画説明及び質疑応答

事業名 : 「さくらカフェ」による地域活性化事業

事業概要 : 緑ヶ丘地域で暮らす高齢者を対象に、定期的集いの場を設けて、健康づくりに関するプログラムを実施する。参加者自らが役割を発揮できる場や、地域施設の福祉施設との交流等をプログラムに取り入れ、高齢者の閉じこもりを防ぎ、生きがいのある暮らしを支援する。

質疑応答 : [委員] 会員は 7 名か。

[説明者] スタッフが 7 名。参加者は 30 名程度で、それに加えて地域の通所介護事業所の方、包括支援センターの方、社会福祉協議会の方のほか、太白区の障害高齢課からデイサービスに行けないが外に出してあげたい方を頼まれて参加していただくこともある。設立当初は月 2 回を自己資金で運営できていたが、コロナ禍になったことで、十分な感染対策のもと、月 1 回の開催にしていた。参加人数も増え、コロナの感染状況も柔和になってきたことで、月 2 回に戻そうと思い申請した。

[委員] 収支予算に自己資金 72,000 円とあるが、助成対象外経費の製作費 200 円の

合計 72,000 円と同じものと考えてよいか。別に、参加者負担金として 300 円と体操代 100 円が計上されていることから、参加者の負担は合計 600 円ということか。
[説明者] そのとおり。参加者の多くが年金生活者であり、参加者間で年金受給額の差も大きい。支払いが難しい参加者に対しては、主催者で負担して実施していたこともあったが、そのやり方だと事業拡大が難しいと感じ、参加者負担金を 300 円に設定している。参加者負担金からお茶代を出すと、運営が難しくなるため、助成対象経費にお茶代を計上させてもらった。

[委員] みやぎ生協の福祉活動助成金を受けていたことについて聞きたい。

[説明者] 3 回助成金を受けた。今回この助成金を受けながら活動し、自己資金を貯めていきたいと思っている。現在は制作費を少しでも削るため、100 円均一などをスタッフで駆けずり回っている状況。助成金を受けずに活動できるようにしていきたいと思っているが、現在の予算では難しい。

[委員] 3 年間かけてステップアップして行ってほしい。

[委員] 役員名簿に役員の役割の記載がないが。

[事務局] 印刷ミスがあったため、後ほど配布する。

[委員] ぜひクラウドファンディングを勉強していただきたい。

[説明者] クラウドファンディングの勉強始めることを考えていた。ただし、サロン運営を参加者の安否確認の一環としていきたい思いもある。

[委員] 先日知り合いの農家の方が子どもに農業のよさを伝える絵本を作るという内容でクラウドファンディングを行ったら 180 万が集まった。安いコースはお礼の手紙、1 万円で絵本をプレゼントのように段階を分けていた。この活動についても、例えば一番安いコースを参加者の笑顔の写真に、会の中で製作したものを返礼品と少し高いコースにするなど、活動内容の中でできるものがあるのではないか。

[説明者] 自身がもともと看護師をしていた関係で、無償で来てくれる看護師の方などに対しては、製作した作品をお礼に渡していた。同様に、製作物をクラウドファンディングの返礼品とすることを考えていた。

④「生出学区連合町内会 生出地区まちづくり委員会」による事業計画説明及び質疑応答

事業名 : 「おいでもん」のまちづくり

事業概要 : 生出地域の子もたち考案のオリジナルキャラクター「おいでもん」の着ぐるみを、地域住民で協力して製作することで、生出地域の活性化やコミュニティの形成を目指す。完成した着ぐるみを各種イベントに活用する。

質疑応答 : [委員] 物を購入したいという内容は助成金がおりにくい。今年度は太白区の予算額を上回る申請額となっているため、採択されても減額となる可能性が高い。減額と

なった場合に考えている代替策のイメージがあれば伺いたい。

[説明者] 減額の場合は、バザーに地域の企業で売れないものを出してもらったり、チラシをつくって家庭から不用品を集めたり、より多くバザーの売上を上げて、予算に上乗せできるよう取り組みたい。また、連合町内会から応援をもらうなどして、なんとか継続していきたい。

[委員] 寸法から作るということだが、子どもも着られるものにするのか。

[説明者] 中学生くらいから大人までという設定になると思う。ただし、1人固定という形ではなくて、中学生が入ったり地域の人が入ったり、みんなが入って使うということを考えている。

[委員] 作った後の維持費はどのくらいかかるものなのか。またそれをどのように捻出するのか。保管場所はどうするのか。作った後に重荷になるのではないか。

[説明者] 時々クリーニングも必要になる。委員会の活動費のほか、町内会に協力いただくなどして維持費を捻出することを考えている。使わない場所の常設場所としては、市民センターを考えていて、館長に相談しているところである。

⑤「さかいの地区創生会」による事業計画説明及び質疑応答

事業名 : 秋保・さかいの村のふれあい体験交流事業

事業概要 : 秋保・境野地区において、地域外住民が参加するイベントを開催することにより、地域の魅力発信の機会を創出するとともに、交流人口の拡大や若年層の移住・定住を促進する。

また、地域資源である森峯山や旧街道等の整備を通じて、新たな資源の発掘を行い、さらなる魅力創出と地域住民の誇りの醸成を図るほか、産直市を開催し、観光者等に地元の野菜等をPRする。

質疑応答 : [委員] 産直市にはどのくらいの数の人が訪れているのか。また、売上が資金になるということは、出している産直品は会員の方が無料で提供してくれているイメージか。

[説明者] もともと地元でJA女性部に属している方が、今と同じ場所で個人的にやっていた産直市に、さかいの地区創生会がてこ入れをして、備品を買ったり、設営準備を手伝ったりして、収益を上げるようになっていったという経過がある。去年の実績でいうと、1日平均50名から60名、年間で40回以上やっているのでも2300人くらいの方が来ている。1日の売上は、その女性の方たち5名の売上と、委託で預かって販売しているものを含めて、数万円ほどである。その1割を手数料として創生会が受け取っている。それを活動の原資としている。軌道に乗ってきたので、一定の収益はあるものの、いろいろなことに取り組もうとすると、今のところまだ

助成金が非常に貴重な資金になっている状況。ゆくゆくは、助成金に頼らず、会で自立してやっていこうと思う。

[委員] 活動報告会の際に、ぜひ地元の小学生を巻き込んでほしいといったアドバイスをさっそく取り入れていて素晴らしい。植えるところを一緒にやった後、途中の成長の過程などについても、コミュニケーションを切らさないようにするとよい。特に今年は多くの催事が、コロナ前に戻ると聞いているので、小学生には刺激が多い年になり、忘れられがちになる。コミュニケーションの量を増やすために、例えば学校に協力してもらい、昇降口に大豆の成長過程の写真を印刷して貼らせてもらうだけでも、小学生が関心を持つと思う。そのような工夫を取り入れてほしい。

[説明者] 小中学校の先生と話した際、植えてから収穫まで間が空くので、途中で草取り体験や収穫の喜びが味わえるよう試食もしてもらいたいと話した。学校からは、試食もよいが、大豆ができるまでを体験させ、できた大豆を味噌にするところまでやると子どもたちの学習になると言われた。これについては、今後協議しながらやっていきたいと考えている。

⑥「楽元の森運営委員会」による事業計画説明及び質疑応答

事業名 : 楽元の森活用事業

事業概要 : 上野山小学校に隣接する「楽元の森」の施設設備等の整備、充実を図る。

また、市民センターやPTA、近隣小中学校等関係団体と連携して、地域の子供を対象とした様々なイベントの開催により、地域一体となった子供の育成や地域づくりの担い手の発掘を図る。

質疑応答 : [委員] 毎年成果発表で聞かせてもらっていたが3年目となり、PTA活動をやる人が少なくなっていく中で、別活動として一つの森を守ってきているという活動は大変素晴らしい。助成金終了後も経費削減しながら継続していくと記載があるものの、今後の組織体制に課題があるのではないか。もしかしたら活動が活発すぎることで、逆に役員の方の負担にもなっているところがあるのではないか。今後の組織体制を、どのように継続していくのかという点について聞かせてほしい。

[説明者] 全くその通り。今日も子どもの習い事や仕事を理由に、スタッフから退会についての相談を受けたところだった。同世代と一緒にやってきたスタッフのお子さんが成長し、中学生の子どもに付き合わなければならないと言われるようになってきた。しかし、年間の活動の中でそのスタッフがどうしても必要となる場面があり、またそのスタッフからの情報や繋がりによって活動の幅が広がっていくところもあるため、スタッフが一人退会してしまうと今後の活動内容に大きく影響してしまう。

そういう場合には、退会はずに、できるところだけでも参加してもらおうようにしている。年代的に仕事もあり、なかなか参加しにくい状況はある。とはいえ、楽元の森があるからこそ集えるし、集まった町内会の方から昔の遊びを覚えてもらうなどの楽しみもある。今は大変だが、自分たちの年齢が上がっても集まってふざけられるような、一つの集いの場となるよう、活動を継続していきたいと思っている。

[委員] 子どものころにキャンプのような体験をしておくというのは、のちに大事な経験となると思うが、宿泊は難しいのか。安全上のハードルが高いのか。

[説明者] (既に) 学校に泊まろう企画というものを、年に1回だけだがやっている。参加率が高いのはデイキャンプで、(かまどで) 自分で焼きたい食材を持ち込んでもよいことにしている。広く場所を使い、レンガで一人一つの窯を作って焼くので、感染対策も十分できていたと思う。

⑦「西多賀まちづくり推進委員会」による事業計画説明及び質疑応答

事業名 : 公民協働で『育てる桜』に挑戦～三神峯の”桜縁”を永遠に

事業概要 : 三神峯公園において、桜の整備について行政と協働で「育てる桜」に取り組む。また、市民センター、学校、各町内会など地域と連携した環境美化・維持活動を継続していくほか、桜ガイドの発行や写真コンテスト等により、三神峯の魅力発信に取り組む。

質疑応答 : [委員] 三神峯公園を実際に訪れてみて、素晴らしい取り組みをされていると思っている。予算に樹木医謝礼として10万円が三神峯展・講演会の項目として計上されているが、講演会での謝礼として考えているのか。

[説明者] (講演会だけではなく、樹木の診断に) 樹木医1名に協力してもらっている。本来ならば、公園課で対応すべきところだが予算上難しいということで、西多賀まちづくり推進委員会で依頼している。樹木医に依頼するのは年3回ほどで、謝礼以外にも委員会として必要なものもあるため、この金額になっている。公園課とも打ち合わせして、いろいろお願いしたいと話しているが、資金的な援助はできないと言われている。委員会のメンバーは皆素人で高齢者も多いため、樹木医の指導を仰ぎながら取り組んでいきたい。

[説明者] 昨年樹木医に来てもらい、現地の視察と指導をしてもらった。その際に講演会を行い、気持ち程度の謝礼を渡した。樹木医の先生には一度来てもらおうと、半日から一日かけて診てもらおうことになる。一目千本桜を診ている先生で、特殊技術がある先生のため、1回につき交通費も含めて2万円ほど渡している。新しい品種も開発している先生で、5本その品種を寄贈してもらっていて、今年咲くと思う。

[委員] そうすると、1回の謝礼は2万ぐらいを予定して、それが年3回ぐらい。

その他経費も含めて計上していることでよいか。

[説明者] そのとおり。

⑧「八木山地区まちづくり研究会」による事業計画説明及び質疑応答

事業名 : 八木山駅前 AR 商店街

事業概要 : AR (拡張現実) 技術を利用し、八木山駅前商店会の活性化を図る。地域内各所や各店舗前でスマホをかざすと、3D キャラクターや店の紹介パネルが浮かびあがる仕掛けを作り、イベント実施時以外の平常時から、若者や親子連れを呼び込み、地域に賑わいをつくりだす。

質疑応答 : [委員] 昨年度までのイルミネーションのプロジェクトは、高齢者を含めて、わかりやすい内容だった。一方で、今回は高齢者にとってはわかりにくく、前回に比べて拡張性がないと感じた。その点について、何かイメージなどを持っているか。

[説明者] ほとんどの予算が講師謝礼とノウハウの印刷費としているのは、我々が AR に関するリテラシーを上げると同時に、ノウハウを印刷して近隣の商店街に提供することを考えていることからである。30代40代の方が高齢者の皆さんに教え、若い方が自分たちのリテラシーを高齢者と一緒に楽しむ。現在も二次元コードを読める高齢者今一生懸命作っている。この方法によって、AR を楽しむ何千人という中に高齢者も入ってくる。

[委員] 今スマホで読み取りができるということは、もうすでにサーバーがあるということだと思うが、これは無料プランか。

[説明者] そのとおり。

[委員] 有料のレギュラープランでは、どのような違いがあるのか。

[説明者] 無料プランは二次元コードに対応させる画像を3つまで設定できるが、レギュラープランだと10種類作れるようになる。その数までなら何回でも画像を変えられるので、パワーポイントでJPEGにしたものを、毎日店主が変えることもできる。ポイントを付けたりとか、スタンプラリーをすとか、イベント性がある。よって、イベントの時にレギュラープランを使い、普段は(無料プランを使って)各店主のほか、例えば学校の先生が授業参観の際に教室前に二次元コードを貼って(掲示して)、保護者がそれを読み込むと授業の様子がわかるというようなものを作っていこうと考えている。

[委員] 予算を見ると、講師に20時間、民間のコストは7時間となっている。このとおり実施したとすると、今回覚えられたら来年度は自分たちでできるということで、来年度以降も継続していく場合、講師謝礼は予算には不要な項目となるということか。

[説明者] 希望する中学生高校生に学校で講演会することとなっている。覚えた子どもたちのボランティア先になるということ。次年度以降は、中学生高校生が、1年遅れてやりたいと言っている地域の人に教えに行く。若者活躍という形で考えている。

[委員] 今年度覚えたら、来年度引き継いで教える役割になってもらうということか。今年度はそこが一番大きな予算だが、来年、再来年は減ってくるということか。

[説明者] そのとおり。その分で各種製作費のレギュラープランの予算を増やし、ARを覚えた人がいろいろ作って、様々な地域のイベントを行う。来年度以降は、事業名を八木山駅前 AR 商店会から八木山駅前 AR タウンなどにしたい。例えばイルミネーションの事業でも、ライブ中に周りに星が浮き上がるようにしたり、紫陽花のライトアップの上に光が泳いでいるようなものを作ったりということをやってみたい。イルミネーションの事業もバージョンアップすると思う。

4 第2回議事 【非公開】

(1) 評価

- ①採点の集計結果について報告
- ②申し込み事業に係る評価・協議
- ③助成金額案についての協議

(2) その他

- ・指定候補事業の助成金額案を協議したが、助成後の予算残額がないので、追加募集は行わないこととする。
- ・今年度をもって太白区まちづくり事業評価委員を退任される委員から、一言ご挨拶を頂戴したい。

5 閉会